2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

2026年11月5日

コタエを、ダセル。

DAICEL

株式会社ダイセル

Copyright © DAICEL CORPORATION All rights reserved.

サマリー

2027年3月期上期実績（対前年同期）

売上高	3,120億円	（+12.6%）
営業利益	285億円	（+41.8%）
EBITDA	499億円	（+23.4%）
親会社株主に帰属する中間純利益	185億円	（△1.9%）
ROIC	5.0%	（+0.1pp）

為替レート USD/JPY ：159円 （前年同期 USD/JPY：146円）

【売上高・営業利益】増収・増益

（+）ハイパフォーマンスポリマーズ事業において、POMやAIサーバー需要を背景としたLCP・PPS等の各樹脂の販売数量が増加。

（+）原料価格上昇に伴う価格転嫁や為替の影響。

【親会社株主に帰属する中間純利益】減益

（△）政策保有株式の売却に伴う投資有価証券売却益が減少。

2027年3月期通期業績予想修正（対5月発表予想）

売上高	6,470億円	（+8.7%）
営業利益	505億円	（+18.8%）
EBITDA	950億円	（+9.2%）
親会社株主に帰属する当期純利益	410億円	（+28.1%）
ROIC	5.0%	（+0.7pp）

為替レート（想定）USD/JPY ：157円 (当初予想USD/JPY：150円)

【売上高・営業利益】増収・増益

〈上期〉 5月発表予想を上回った

（+）ハイパフォーマンスポリマーズ事業において、PBTやLCPなどの販売数量が増加。

（+）各事業における原料価格上昇に伴う価格転嫁、為替の影響。

〈下期〉 5月発表予想より弱含みを見込む

（△）原料価格の上昇。

（△）ハイパフォーマンスポリマーズ事業におけるPOMの戦略的な価格設定。

株主還元

DOE 5％以上かつ総還元性向60%以上を目標に安定的で継続的な株主還元を継続

年間配当を5円増配

中間配当　35円/株（前回発表から変更無し）

期末配当予想　40円/株（前回発表から5円増配）

80億円、560万株（上限）の自己株式取得を決定

ハイパフォーマンスポリマーズ（成長牽引）

POM新プラント稼働による販売拡大

中国における地産地消体制の強化により競争力を高め、中国市場でのシェア拡大とグローバル成長を実現する

中国

市場環境

- 世界市場（CAGR 3%）を上回る需要拡大を背景に、中国での当社販売数量はCAGR 5%で成長
- 新興競合メーカーの台頭
- 中華系自動車OEMでは開発速度が加速

成長戦略

- 2026年10月に中国第2期プラント（6万t）が稼働
- 地産地消体制を構築し、関税・物流リスクを低減
- 品質・信頼性・アプリケーション開発力により、市場平均を上回る価格プレミアムを確保
- 中華系自動車OEM向けへの現地材料開発機能を強化



中国生産拠点：DP Engineering Plastics (Nantong) Co., Ltd.

インド・ASEAN

市場環境

- 旺盛な需要を追い風に、当社販売数量はCAGR 8%を見込む

成長戦略

- 中国向け供給を補完してきたマレーシア品を活用
- 技術サポート強化のため、インドにテクニカルサポート拠点を設立予定

欧米

市場環境

- 医療・食品接触分野向けで高付加価値品の需要が伸長

成長戦略

- 高付加価値用途でのスペックイン活動強化
- マレーシア品を拡販に活用

販売拡大のロードマップ

2025年3月期
24年11月
中国第1期プラント（9万t）が稼働。

2026年3月期
アンチダンピング課税（中国）に対応するため、戦略的な価格・販売管理を実施。

2027年3月期
26年10月
中国第2期プラント（6万t）が稼働。
すでにフル稼働の第1期プラントに加え、第2期プラントもフル稼働を開始。増強能力を活用し拡販。

2028年3月期
中国市場での拡販。
医療・食品接触等の高付加価値分野では、欧米地域でのスペックイン活動と連携し当社材料の採用拡大。

当社の生産能力：398,000t

中国※	マレーシア	日本	台湾
150,000t（第1・第2プラント）	123,000t	100,000t	25,000t

※当社引き取り分：第1期プラント（9万tのうち6.3万t）、第2期プラント（6万tのうち4.3万t）

ハイパフォーマンスポリマーズ（成長牽引）

LCPとPPSの供給体制を強化　**AIサーバー市場 CAGR 20%｜供給能力増強と高付加価値グレードへの重点配分**

LCP

市場環境

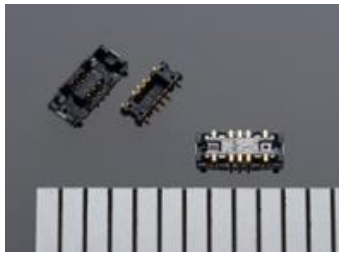
- AIサーバー向け高速通信コネクタやクーリングファンなどの用途で需要が急激に拡大

供給体制

- 富士工場（生産能力：**15,000t**）および24年より稼働した台湾工場（同：**5,000t**）は、ともにフル稼働
- **台湾で新たな増産プラント（同：5,000t）の2029年稼働を計画**

成長戦略

- 成長市場に近い台湾での供給能力増強
- 低誘電・超高流動等の高付加価値グレードを拡大
- 富士・台湾の2拠点体制による安定供給力の強化



狭ピッチコネクタ



クーリングファン※

PPS

市場環境

- AIサーバー市場の急速な成長に伴い、 AIサーバー向け光コネクタ部品用途で需要が拡大

供給体制

- 拡大する需要に対応すべく国内外の既存プラントで増産対応中
- 中国既存プラントにおけるコンパウンド設備投資も検討中

成長戦略

- 長期供給や技術開発で、顧客との連携を強化
- 急速な需要拡大に対応可能な供給体制の構築



光コネクタ部品※

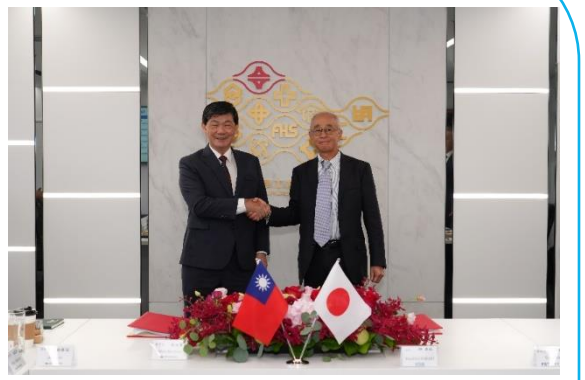
※ 画像はMicrosoft 365 Copilotにより生成。

スマート（次世代育成）

半導体市場拡大への対応

■台湾大手Formosa Plastics Corporation社(FPC社)との合弁会社設立を決定

- 世界的な半導体需要の拡大に対応すべく、**グローバル半導体メーカーへ半導体製造プロセス用高純度溶剤(MMPG、MMPGAC)の生産体制**を構築する。
（2029年に事業開始予定）
- FPC社の原料・インフラ基盤 × 当社の高純度溶剤に関する技術・品質管理ノウハウ
⇒世界トップシェアの半導体フォトレジスト向けMMPGACを軸に、半導体向けシェアのさらなる拡大を目指す。



FPC社との調印式

■EUVレジストポリマー先端半導体領域へ拡大

- 最先端用途に対応可能な設備改造が完了、**2026年10月より稼働開始**。
- モノマー設計と精密重合技術による高品質を強みに、複数案件を量産化予定。

■マイクロ流体デバイス：半導体用ポリマー試験生産

- 新井工場にて2026年6月から試験機の稼働開始。
- 顧客評価用サンプル生産や事業化に向けた実証を推進。



2027年3月期 第2四半期（中間期）業績

対前年同期：

【売上高・営業利益】　増収・増益

（+）ハイパフォーマンスポリマーズ事業において、AIサーバー需要を背景としたLCP・PPSや、前年同期に落ち込んでいたPOMの販売数量が増加。

（+）各事業における原料価格上昇に伴う価格転嫁や為替影響。

【親会社株主に帰属する中間純利益】　減益

（△）政策保有株式の売却に伴う投資有価証券売却益が減少。

対予想：

【売上高・営業利益】増収・増益

（+）ハイパフォーマンスポリマーズ事業において、中東情勢を背景とした材料確保需要や、AIサーバー向けなどの需要が想定を上回り、各樹脂の販売数量が増加。

（+）各事業における原料価格上昇に伴う価格転嫁や為替影響。

（△）COプラントトラブル影響額　△10億円。

単位：億円	2026/3 上期実績	2027/3 上期予想※	2027/3 上期実績	対前年同期 増減	対前年同期 増減率	対予想 増減	対予想 増減率
売　上　高	2,771	2,880	3,120	+349	+12.6%	+240	+8.3%
営 業 利 益	201	165	285	+84	+41.8%	+120	+72.9%
経 常 利 益	204	170	282	+78	+38.4%	+112	+65.9%
親会社株主に帰属する中間純利益	188	100	185	△4	△1.9%	+85	+84.5%
為替レート USD/JPY	146	150	159				
E B I T D A	405	370	499	+94	+23.4%	+129	+34.9%

※2026年5月12日発表値

セグメント別 売上高・営業利益（対前年同期　増減・要因分析）

単位：億円

	売上高						
	2026/3 上期実績	2027/3 上期実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
ハイパフォーマンスポリマーズ	1,055	1,284	+229	+21.7%	+85	+144	+73
マテリアル	942	970	+28	+3.0%	△49	+77	+54
セイフティ	497	542	+45	+9.0%	+6	+39	+43
スマート	182	217	+35	+19.3%	+8	+27	+11
ライフサイエンス	85	99	+14	+17.0%	+9	+5	+6
その他事業	10	8	△2	△21.5%	△2	－	－
合　計	2,771	3,120	+349	+12.6%	+56	+292	+186

単位：億円

	営業利益							
	2026/3 上期実績	2027/3 上期実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	その他	営業利益の内 為替影響
ハイパフォーマンスポリマーズ	117	168	+51	+43.8%	+38	+6	+7	+14
マテリアル	46	66	+20	+42.5%	△20	+7	+33	+19
セイフティ	27	21	△6	△21.1%	+0	△1	△5	+4
スマート	4	16	+12	+295.8%	+5	+1	+6	+7
ライフサイエンス	4	10	+6	+161.2%	+10	+2	△6	+2
その他事業	4	5	+1	+23.0%	+1	－	－	－
合　計	201	285	+84	+41.8%	+33	+16	+36	+47

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ ハイパフォーマンスポリマーズ

単位：億円	2026/3 上期実績	2027/3 上期実績	対前年同期	
			増減	増減率
売　上　高	1,055	1,284	+229	+21.7%
営 業 利 益	117	168	+51	+43.8%
為替レート USD/JPY	146	159		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+38	POM、LCP等の各樹脂の販売数量の増加
価格影響	+6	原料価格高騰に伴う価格転嫁や為替の影響など
その他	+7	移動平均差等

【対前年同期】増収・増益

POM、PBT、LCPを中心とした販売数量の増加や、原料価格高騰に伴う価格転嫁に加え、為替影響もあり増収・増益。

- POM：前年同期の米国関税や中国のアンチダンピング課税開始時の買い控えからの回復。　（販売数量　6%増）
- PBT：自動車分野での部材・製品確保に加え、半導体、工作機械、スマート家電向け需要が拡大。　（販売数量　7％増）
- PPS/LCP：AIサーバー向けの旺盛な需要が継続。　（販売数量：PPS　6％増、LCP 2割弱増）
- COC：環境対応包装用途が堅調に推移。　（販売数量：　3％増）

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ マテリアル

単位：億円	2026/3 上期実績	2027/3 上期実績	対前年同期	
			増減	増減率
売　上　高	942	970	+28	+3.0%
営 業 利 益	46	66	+20	+42.5%
為替レート USD/JPY	146	159		

営業利益（対前年同期）

分析	増減	主な増減要因
数量影響	△20	アセテート・トウの販売数量減少など
価格影響	+7	原料価格高騰に伴う価格転嫁や為替の影響など
その他	+33	酢酸市況の上昇による在庫評価影響や期首の繰越在庫影響

【対前年同期】増収・増益

アセチル　増収（+3.0%）

- アセテート・トウ：中東情勢悪化に伴う輸送停止や、一部顧客向けの出荷時期後ろ倒しなどにより、販売数量が減少し減収。
- 酢酸セルロース：繊維用途の需要が低迷したものの、ディスプレイ材料用途の需要が堅調に推移。原料価格高騰に伴う価格転嫁も寄与し増収。

ケミカル　増収（+2.8%）

- 酢酸：低採算輸出の削減や酢酸ビニルの減産により販売数量は減少したものの、原料価格上昇に伴う価格転嫁により増収。
- 1,3-BG：原料調達懸念に伴う輸出の販売制限により販売数量は減少したものの、原料価格高騰に伴う価格転嫁により増収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ セイフティ

単位：億円	2026/3 上期実績	2027/3 上期実績	対前年同期	
			増減	増減率
売　上　高	497	542	+45	+9.0%
営 業 利 益	27	21	△6	△21.1%
為替レート USD/JPY	146	159		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+0	販売数量は増加したが、製品構成差は悪化
価格影響	△1	原料価格の上昇
その他	△5	全社共通費配賦額の増加やタイにおける早期退職金などの一過性費用の計上

【対前年同期】増収・減益

自動車エアバッグ用インフレータは、中国での需要減少を、インドなど他市場での生産・販売拡大でカバーし、販売数量は約1%増加。為替影響もあり増収。

〈主な生産拠点別 販売数量〉 中国：約1割減 ／ 日本：約1割増 ／ 米国：約4%増 ／ インド：約2割増

セグメント別 事業概況（対前年同期）

スマート

単位：億円	2026/3 上期実績	2027/3 上期実績	対前年同期 増減	対前年同期 増減率
売　上　高	182	217	+35	+19.3%
営 業 利 益	4	16	+12	+295.8%
為替レート USD/JPY	146	159		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+5	電子材料向け溶剤の販売数量の増加
価格影響	+1	原料価格高騰に伴う価格転嫁や為替の影響など
その他	+6	期首の繰越在庫の影響

【対前年同期】増収・増益

半導体材料　増収（+28.7%）

- 電子材料向け溶剤：半導体需要が堅調に推移し販売数量が増加。原料価格高騰に伴う価格転嫁も寄与し増収。
- フォトレジスト材料：前年同期との販売時期のずれにより減収。

高機能材料　増収（+13.6%）

- カプロラクトン誘導体：販売数量の増加に加え、原料価格上昇に伴う価格転嫁や為替影響により増収。
- 脂環式エポキシ：中東情勢に伴う出荷制限により販売数量は減少したものの、原料価格上昇に伴う価格改定や為替影響により増収。
- 機能フィルム：車載向けフィルムの市況悪化により減収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

ライフサイエンス

単位：億円	2026/3 上期実績	2027/3 上期実績	対前年同期	
			増減	増減率
売　上　高	85	99	+14	+17.0%
営 業 利 益	4	10	+6	+161.2%
為替レート USD/JPY	146	159		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+10	キラルカラム関連や健康食品素材の販売数量の増加
価格影響	+2	
その他	△6	販売経費や研究開発費の増加

【対前年同期】増収・増益

- キラルカラム関連事業：中国・インド向け販売が好調に推移し増収。
- 健康食品素材：サプリメント向け販売が好調であり、中でもエクオールが大きく伸長したこともあり増収。

セグメント別 売上高・営業利益（対上期予想）

単位：億円

		2027/3 上期予想※	2027/3 上期実績	予想比	対 上期予想の状況
ハイパフォーマンスポリマーズ	売上高	1,135	1,284	+149	・各樹脂において、中東情勢を背景とした材料確保需要や、半導体、工作機械、AIサーバー向けが想定以上の需要だったこと、価格転嫁や為替影響などにより計画を上回った。
	営業利益	105	168	+63	
マテリアル	売上高	920	970	+50	・アセテート・トウ：中東情勢悪化に伴う輸送停止などにより販売数量は計画を下回ったものの、為替影響などにより売上高は計画並み。 ・酢酸セルロース：ディスプレイ材料用途の堅調な需要に加え、原料価格高騰に伴う価格転嫁により、売上高は計画を上回った。 ・酢酸・1,3-BG等のケミカル品：販売数量は計画を下回ったものの、原料価格上昇に伴う価格転嫁により、売上高は計画を上回った。
	営業利益	26	66	+40	
セイフティ	売上高	525	542	+17	売上高： ・自動車エアバッグ用インフレータ：中国市場における日系OEMの販売低迷により販売数量は計画を下回ったものの、為替の影響等により計画を上回った。 営業利益： ・ タイにおける早期退職金などの一過性費用の計上や経費の期ずれ等により計画を下回った。
	営業利益	25	21	△4	
スマート	売上高	190	217	+27	・電子材料向け溶剤：堅調な半導体需要や価格改定効果により、売上高は計画を上回った。 ・フォトレジスト材料：販売時期のずれにより、売上高は計画を下回った。 ・カプロラクトン誘導体・脂環式エポキシ：出荷制約があったものの、原料価格上昇に伴う価格転嫁や為替影響により、売上高は計画を上回った。 ・機能フィルム：車載向けの市況悪化により、売上高は計画を下回った。
	営業利益	5	16	+11	
ライフサイエンス	売上高	100	99	△1	・キラルカラム関連事業：中国やインドにおける製品販売が好調なことにより、売上高は計画を上回った。 ・健康食品素材：エクオールの需要低迷により、売上高は計画を下回った。
	営業利益	2	10	+8	

※2026年5月12日発表値

連結貸借対照表

単位：億円		2026年3月末	2026年9月末	増減
流動資産		4,032	4,038	+7
	現金及び預金	688	554	△134
	受取手形及び売掛金	1,173	1,177	+4
	棚卸資産	1,745	1,931	+186
	その他	425	376	△49
固定資産		4,308	4,373	+65
	有形固定資産	3,344	3,369	+26
	無形固定資産	111	109	△2
	投資その他資産	853	894	+41
資産合計		8,339	8,411	+72
負債		4,635	4,569	△66
	有利子負債	3,122	2,943	△180
	その他	1,513	1,626	+113
純資産		3,704	3,841	+138
負債純資産 合計		8,339	8,411	+72
為替レート USD/JPY		160	157	

- 総資産+72億円（為替影響△40億円）
- 主な増加要因は棚卸資産+186億円。
  うち為替影響△8億円
  数量影響+110億円、単価影響+75億円

  主な数量増要因

  ✓ POM：定期修繕や中国新プラント稼働に伴う在庫増（約30億円）

  ✓ アセテート・トウ：出荷時期ズレによる製品在庫増（約20億円）

  ✓ パルプ在庫確保（約20億円）
- 期末に向けて数量要因解消、在庫削減アクションの着実な実行により前期末水準以下の1,700億円台前半の水準に圧縮

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：億円		2026/3 上期	2027/3 上期
	営業キャッシュ・フロー	328	392
	投資キャッシュ・フロー	△265	△249
フリーキャッシュフロー		62	143
財務キャッシュ・フロー		△78	△260
その他		13	△1
現金及び現金同等物の増減額		△3	△119
現金及び現金同等物の中間期末残高		644	550

- 営業キャッシュフロー：営業利益の増加や法人税等の支払額の減少があったものの、運転資本が増加し、392億円となった。
- 投資キャッシュフロー：有形固定資産の取得が前期比で減少した一方、有価証券の売却収入も減少し、前期並みの水準となった。
- 財務キャッシュフロー：前年度末のポリプラスチックス簡易吸収分割に伴い保有していた現預金を借入金の返済に充当したことなどにより、△260億円となった。

2027年3月期 業績予想

＜業績予想の修正＞

上期実績が当初予想を大きく上回ったことや、為替が想定より円安で推移していることを踏まえ、通期業績予想を上方修正する。

- 上期：ハイパフォーマンスポリマーズ事業での販売数量の増加や、各事業における価格改定、為替の影響により上振れ。
- 下期：原料価格の上昇に加え、ハイパフォーマンスポリマーズ事業におけるPOMの販売拡大に向けた戦略的な価格設定などにより、当初予想を下回る見込み。

単位：億円

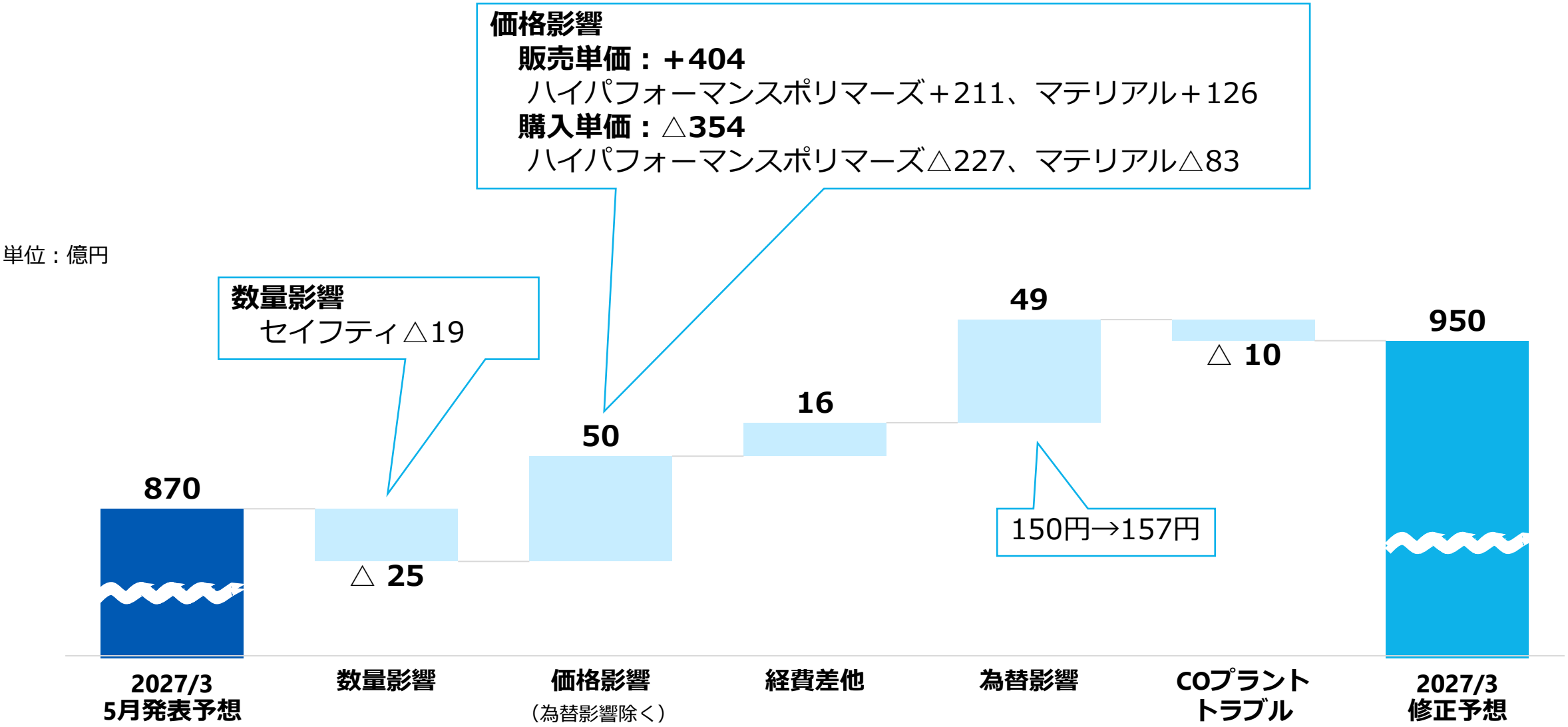
	2026/3 実績	2027/3 5月発表 予想	2027/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売　上　高	5,796	5,950	6,470	+674	+11.6%	+520	+8.7%
営 業 利 益	421	425	505	+84	+20.0%	+80	+18.8%
経 常 利 益	451	430	500	+49	+10.8%	+70	+16.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	102	320	410	+308	+302.8%	+90	+28.1%
為替レート USD/JPY	151	150	157				

	2026/3 実績	2027/3 5月発表 予想	2027/3 修正予想
ＥＢＩＴＤＡ	854	870	950
ＲＯＥ	2.8%	9.1%	11.3%
ＲＯＩＣ	4.2%	4.3%	5.0%
ＲＯＡ	1.2%	3.9%	4.9%
ＥＰＳ（円）	38.75	125.30	160.35

2027年3月期 業績予想　EBITDA分析

EBITDA増減分析

単位：億円



セグメント別 売上高・営業利益　予想

単位：億円

	売上高						
	2026/3 実績	2027/3 5月発表予想	2027/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
ハイパフォーマンスポリマーズ	2,215	2,290	2,630	+415	+18.8%	+340	+14.8%
マテリアル	1,959	1,940	2,080	+121	+6.2%	+140	+7.2%
セイフティ	1,042	1,095	1,105	+63	+6.1%	+10	+0.9%
スマート	377	390	430	+53	+13.9%	+40	+10.3%
ライフサイエンス	184	215	205	+21	+11.7%	△10	△4.7%
その他事業	20	20	20	△0	△1.0%	－	－
合　計	5,796	5,950	6,470	+674	+11.6%	+520	+8.7%

単位：億円

	営業利益						
	2026/3 実績	2027/3 5月発表予想	2027/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
ハイパフォーマンスポリマーズ	191	215	255	+64	+33.8%	+40	+18.6%
マテリアル	148	107	138	△10	△6.6%	+31	+29.0%
セイフティ	61	77	72	+11	+18.1%	△5	△6.5%
スマート	5	10	18	+13	+235.8%	+8	+80.0%
ライフサイエンス	9	13	17	+8	+96.1%	+4	+30.8%
その他事業	7	3	5	△2	△32.0%	+2	+66.7%
合　計	421	425	505	+84	+20.0%	+80	+18.8%

EBITDA		
2026/3 実績	2027/3 5月発表予想	2027/3 修正予想
317	343	383
337	293	324
140	168	163
30	35	43
20	23	27
11	8	10
854	870	950

セグメント別　事業計画（修正予想 対 当初予想）

■ハイパフォーマンスポリマーズ

単位：億円	2027/3 5月発表予想	2027/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売　上　高	2,290	2,630	+340	+14.8%
営 業 利 益	215	255	+40	+18.6%

【対当初予想】　増収・増益

上期は、AIサーバー向けの旺盛な需要に加え、自動車分野での部材・製品確保が寄与し増収・増益となった。
下期は、価格転嫁を実施するものの、期初想定を上回る原料価格の上昇やPOMの戦略的価格設定による拡販等により減益を見込む。
通期では、上期の上振れが寄与し、増収・増益を見込む。

- POM：2026年10月に中国新工場が稼働。地産地消の推進により中国市場でのシェア維持・拡大を図る。
- PBT：半導体、工作機械の需要拡大、スマート家電向け新規採用が寄与。
- PPS・LCP：AIサーバー向け需要の拡大が継続。
- COC：医療用途で顧客の在庫調整が継続するものの、環境対応包装向けの拡販が進展。

セグメント別　事業計画（修正予想 対 当初予想）

■マテリアル

単位：億円	2027/3 5月発表予想	2027/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売　上　高	1,940	2,080	+140	+7.2%
営 業 利 益	107	138	+31	+29.0%

【対当初予想】　増収・増益

アセチル　（+6.0%）

- アセテート・トウ：上期は中東情勢悪化に伴う輸送停止などの影響を受けたものの、中東向け出荷の再開や新規契約の獲得により、通期の販売数量は当初予想並みを見込む。為替影響もあり増収を見込む。
- 酢酸セルロース：繊維・プラスチック用途の需要軟化が続くものの、ディスプレイ材料用途の堅調な需要や価格転嫁により増収を見込む。

ケミカル　（+9.2%）

- 酢酸：酢酸ビニルの減産などにより販売数量は当初予想を下回るものの、原料価格高騰に伴う価格転嫁により増収を見込む。
- 1,3-BG：中東情勢に伴う販売制限などにより販売数量は当初予想を下回るものの、原料価格上昇に伴う価格改定により増収を見込む。

セグメント別　事業計画（修正予想 対 当初予想）

■セイフティ

単位：億円	2027/3 5月発表予想	2027/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売　上　高	1,095	1,105	+10	+0.9%
営 業 利 益	77	72	△5	△6.5%

【対当初予想】　増収・減益

自動車エアバッグ用インフレータ：インド市場で販売が拡大するものの、中国市場での自動車生産台数減少により、販売数量は微減の見込み。
為替影響により、売上高は当初予想を上回る見込みだが、営業利益は中国市場の低迷などの影響で当初予想を下回る見込み。

セグメント別　事業計画（修正予想 対 当初予想）

■スマート

単位：億円	2027/3 5月発表予想	2027/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売　上　高	390	430	+40	+10.3%
営 業 利 益	10	18	+8	+80.0%

【対当初予想】　増収・増益

半導体材料　増収（＋15.9%）

- 電子材料向け溶剤：堅調な半導体需要や原料価格高騰に伴う価格転嫁により、増収を見込む。
- フォトレジスト材料：上期に販売時期のずれがあったものの、通期では当初予想並みを見込む。

高機能材料　増収（＋6.7%）

- カプロラクトン誘導体：中東情勢に伴う出荷制限により販売数量は当初予想を下回るものの、価格転嫁や為替影響により増収を見込む。
- 脂環式エポキシ：中東情勢に伴う出荷制限により販売数量は当初予想を下回るものの、価格転嫁や為替影響により増収を見込む。
- 機能フィルム：車載向け販売の低迷により減収を見込む。

セグメント別　事業計画（修正予想 対 当初予想）

■ライフサイエンス

単位：億円	2027/3 5月発表予想	2027/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売　上　高	215	205	△10	△4.7%
営 業 利 益	13	17	+4	+30.8%

【対当初予想】　減収・増益

〈売上高〉

- キラルカラム関連事業：中国・インドを中心に販売が堅調に推移し、当初予想を上回る見込み。
- 健康食品素材：エクオールの需要低迷により、当初予想を下回る見込み。

※ダイセルインジェクターP1 SCの販売について：
2025年10月に医療機器製造販売承認を取得し、インフルエンザワクチン向けに発売。
販売エリアの拡大や臨床データの取得を進め、使用実績の蓄積と新たな用途開発により事業拡大を図る。



セグメント別　事業計画（対前年度）

単位：億円

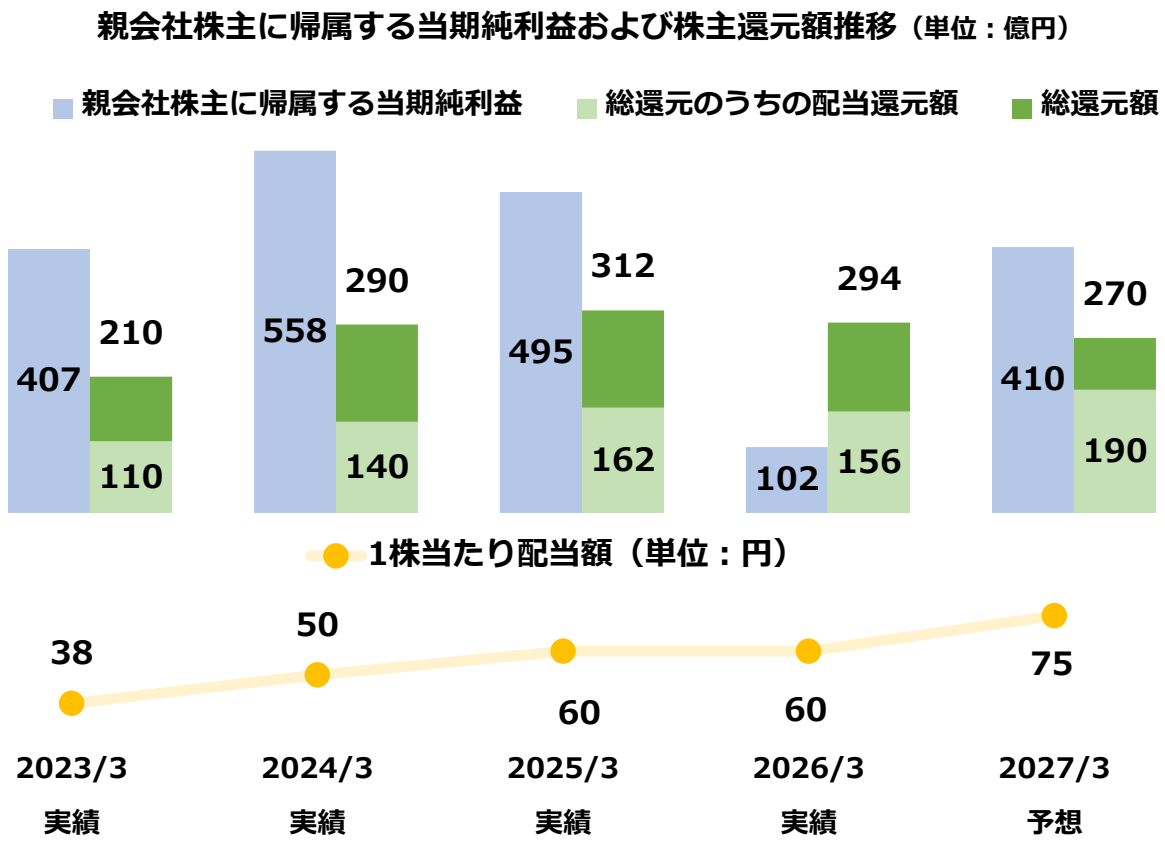
		2026/3 実績	2027/3 修正予想	増減	対　前年度実績
ハイパフォーマンスポリマーズ	売上高	2,215	2,630	+415	〈売上高〉 ・POMの中国アンチダンピング税および前年の米国関税影響からの需要回復に加え、自動車・半導体・AIサーバー関連を中心とした販売数量の増加と原料価格高騰に伴う価格転嫁により増収を見込む。 〈営業利益〉 ・マレーシア工場の定期修繕がないことなどにより、増益を見込む。
	営業利益	191	255	+64	
マテリアル	売上高	1,959	2,080	+121	〈売上高〉 ・アセテート・トウ：下期以降のローカルメーカーの在庫調整解消により、販売数量の増加を見込む。為替影響もあり、増収を見込む。 ・酢酸セルロース：ディスプレイ材料用途は堅調なことや価格転嫁効果もあり、増収を見込む。 〈営業利益〉 ・ 中東情勢による原料価格高騰分の販売価格への転嫁を進めるものの、パルプ原料の値上がりもあり減益を見込む。
	営業利益	148	138	△10	
セイフティ	売上高	1,042	1,105	+63	〈売上高〉 ・ 自動車エアバッグ用インフレータ：上期は中国市場の需要減少の影響を受けたものの、インド・日本など他市場での拡販による販売数量の増加、為替影響により増収を見込む。 〈営業利益〉 ・ 販売数量の増加やコストダウン、為替影響などにより、増益を見込む。
	営業利益	61	72	+11	
スマート	売上高	377	430	+53	〈売上高〉 ・ 半導体材料事業：堅調な半導体需要を背景に、電子材料向け溶剤を中心に販売が伸長し、増収を見込む。 ・ 高機能材料事業：カプロラクトン誘導体・脂環式エポキシの価格改定や為替影響により、増収を見込む。 〈営業利益〉 ・ 電子材料向け溶剤を中心とした堅調な販売により、増益を見込む。
	営業利益	5	18	+13	
ライフサイエンス	売上高	184	205	+21	〈売上高〉 ・ キラルカラム関連事業：中国・インドを中心に販売が堅調に推移し、増収を見込む。 ・ 健康食品素材：エクオールの販売が堅調に推移し、増収を見込む。 〈営業利益〉 ・ キラルカラムやエクオールの堅調な販売により、増益を見込む。
	営業利益	9	17	+8	
為替レート USD/JPY		151	157		

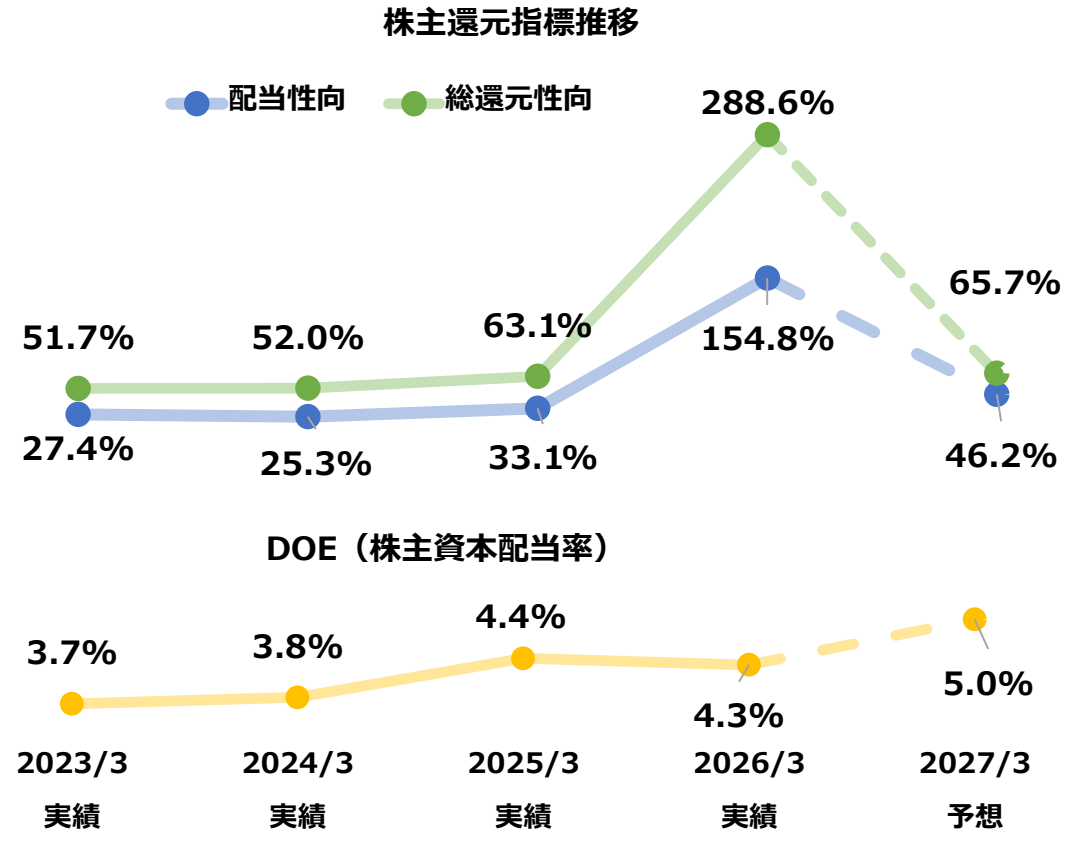
株主還元

年間配当を75円（前期比+15円・前回発表比+5円）に増配、上限80億円の自己株式取得を決定

2026年3月期
- 中間配当 30円／株・期末配当 30円／株
  （年間配当 60円／株　前期と同額）
- 137億円（1,009万株）の自己株式取得を実施
  （取得期間：2025年11月～2026年3月）

2027年3月期
- 中間配当 35円／株・期末配当計画 **40円／株**
  （年間配当計画 75円／株　**前期比+15円・前回発表時+5円**）
- **80億円（上限560万株）**の自己株式取得を決定
  （取得期間：2026年11月～2027年3月）





Appendix

2027年3月期からのセグメント変更

2026年3月期

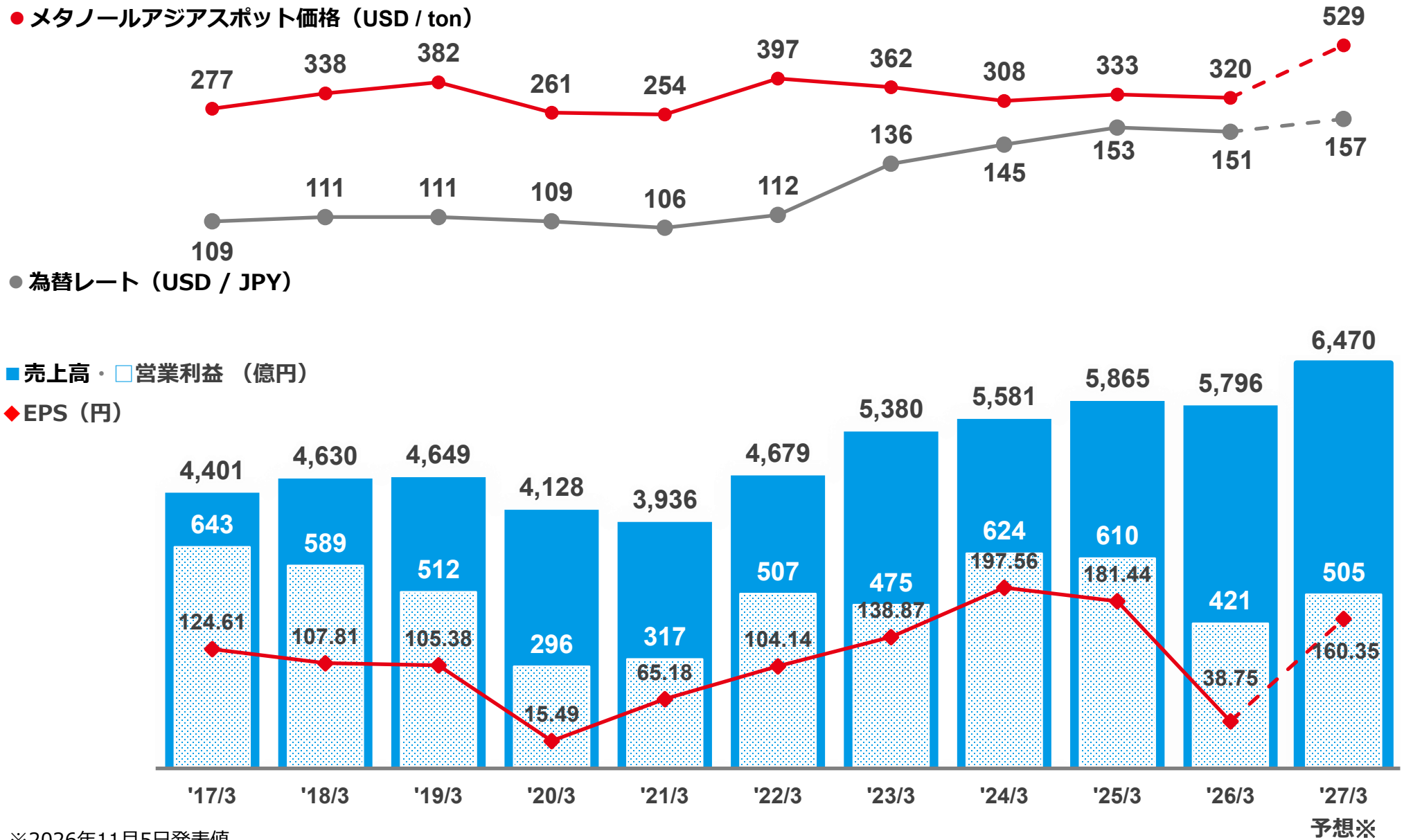
セグメント	サブセグメント
メディカル・ヘルスケア	ライフサイエンス
	ヘルスケア
スマート	ファンクショナルプロダクツ
	アドバンストテクノロジー
セイフティ	モビリティ
	インダストリー
マテリアル	アセチル
	ケミカル
エンジニアリングプラスチック	ポリプラスチックス社
	ダイセルミライズ社※3

2027年3月期

セグメント	サブセグメント	主な製品
ハイパフォーマンスポリマーズ	ポリアセタール（POM）、ポリブチレン・テレフタレート（PBT）、ポリフェニレン・サルファイド（PPS）、液晶ポリマー（LCP）、環状オレフィン・コポリマー（COC）	
マテリアル	アセチル	アセテート・トウ、液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）※1、酢酸セルロース※1、生分解性酢酸セルロース（CAFBLO®）※1
	ケミカル	酢酸※1、無水酢酸※1、酢酸エチル、1,3-BG、ポリグリセリン、酢酸セルロース真球微粒子（BELLOCEA®）※2、水溶性高分子（CMC）※3、AS樹脂※3
セイフティ	自動車エアバッグ用インフレータ、電流遮断器、シートベルトプリテンショナー用ガス発生器（PGG）	
スマート	半導体材料	電子材料向け溶剤、フォトレジスト材料
	高機能材料	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、機能フィルム※1
ライフサイエンス	クロマトグラフィー用カラム・充填剤（キラル・アキラル）、受託分取・分析等各種サービス、動物実験用デバイス（アクトランザ®ラボ）、医療機器（ダイセルインジェクター）、健康食品素材（エクオール、ウロリッチ®、アストロホップ®など）、分離膜※4、分離膜モジュール※4、透析用水作製装置（MOLSEP®）※4	

※1：サブセグメントを変更
※2：旧メディカル・ヘルスケアからマテリアルへ移管
※3：ダイセルミライズ（旧エンジニアリングプラスチック）をマテリアルへ移管
※4：旧その他からライフサイエンスへ移管

売上高・営業利益・EPSの推移



※2026年11月5日発表値

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円

	売上高					
	2026/3				2027/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
ハイパフォーマンスポリマーズ	518	537	558	601	642	642
マテリアル	488	454	497	520	457	513
セイフティ	245	253	273	271	265	277
スマート	95	87	93	103	106	111
ライフサイエンス	43	42	50	49	49	50
その他事業	5	5	5	5	4	4
合　計	1,393	1,378	1,476	1,549	1,524	1,596

単位：億円

	営業利益					
	2026/3				2027/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
ハイパフォーマンスポリマーズ	67	50	38	36	81	87
マテリアル	42	5	55	47	42	23
セイフティ	16	11	24	11	3	18
スマート	2	2	△0	2	7	9
ライフサイエンス	2	2	6	△1	5	5
その他事業	2	2	1	2	2	3
合　計	130	71	123	96	140	145

2027年3月期 業績予想

単位：億円

	2027/3 5月発表予想			2027/3 修正予想※				増減 (B)-(A)
	上期	下期	通期(A)	上期実績	3Q期間	下期	通期(B)	
ハイパフォーマンスポリマーズ	1,135	1,155	2,290	1,284	676	1,346	2,630	+340
マテリアル	920	1,020	1,940	970	589	1,110	2,080	+140
セイフティ	525	570	1,095	542	303	563	1,105	+10
スマート	190	200	390	217	103	213	430	+40
ライフサイエンス	100	115	215	99	55	106	205	△10
その他事業	10	10	20	8	4	12	20	–
売　上　高	2,880	3,070	5,950	3,120	1,730	3,350	6,470	+520
ハイパフォーマンスポリマーズ	105	110	215	168	37	87	255	+40
マテリアル	26	81	107	66	44	72	138	+31
セイフティ	25	52	77	21	19	51	72	△5
スマート	5	5	10	16	1	2	18	+8
ライフサイエンス	2	11	13	10	4	7	17	+4
その他事業	2	1	3	5	△1	0	5	+2
営 業 利 益	165	260	425	285	105	220	505	+80
経 常 利 益	170	260	430	282	108	218	500	+70
親会社株主に帰属する当期純利益	100	220	320	185	150	225	410	+90
（参考）為替レート　USD/JPY	150	150	150	159	155	155	157	

※2026年11月5日発表値

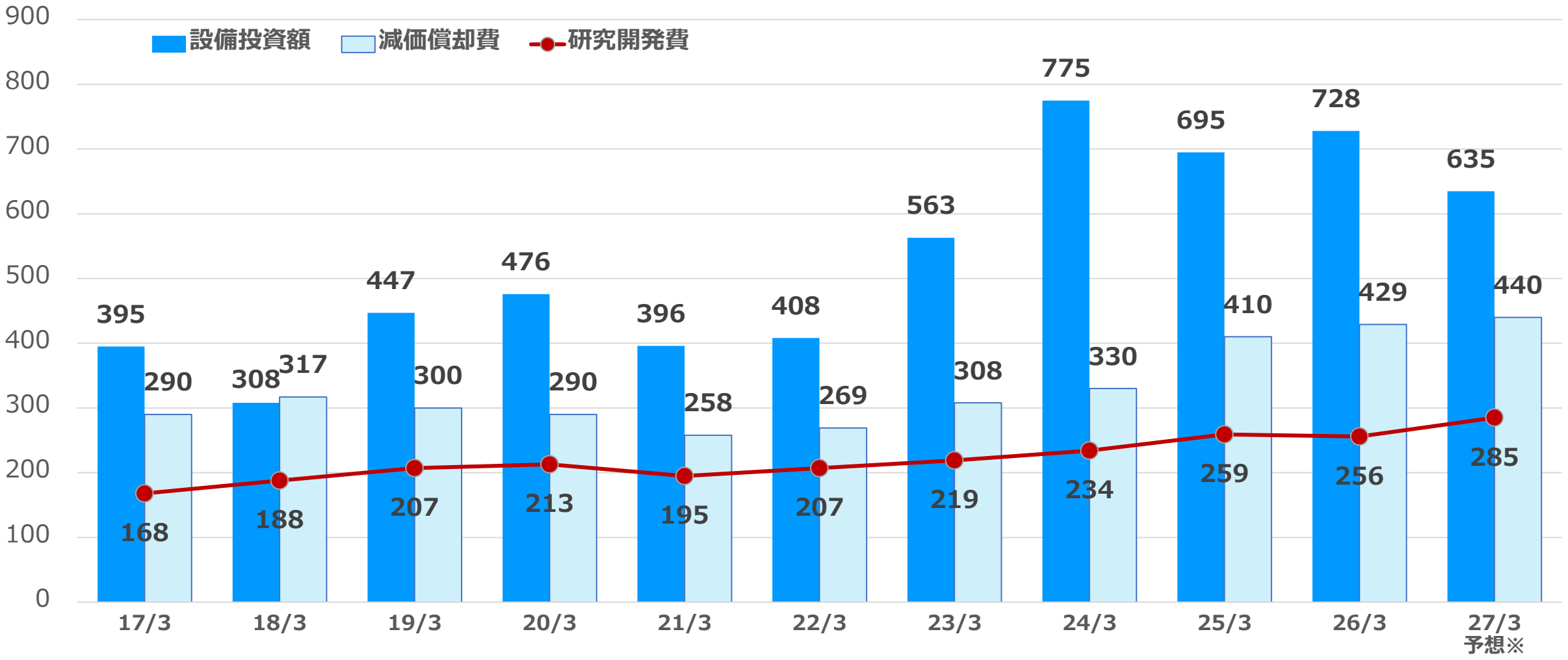
設備投資額・減価償却費・研究開発費

単位：億円	設備投資額		減価償却費		研究開発費	
	2026/3 実績	2027/3 予想※	2026/3 実績	2027/3 予想※	2026/3 実績	2027/3 予想※
ハイパフォーマンスポリマーズ	355	270	124	125	71	84
マテリアル	236	230	188	185	43	50
セイフティ	96	70	78	90	77	85
スマート	24	35	24	25	41	40
ライフサイエンス	14	25	11	10	22	25
その他事業・全社	4	5	4	5	2	1
合　計	728	635	429	440	256	285

※ 2026年11月5日発表値

設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移

単位：億円



※2026年11月5日発表値

為替レート・主要原燃料価格動向

		2026/3 実績		2027/3 5月発表予想※1	2027/3 修正予想	
		上期	下期	通期	上期実績	下期計画
為替レート（USD／JPY）		146	156	150	159	155
原料	メタノール アジアスポット価格（USD/ton）	307	320	330	508	550
	原油 ドバイ（USD/bbl）	69	75	70	93	110
	国産ナフサ（円/kl）	64,750	65,650	65,000	97,000※2	100,000

※1 2027年3月期5月発表予想には、中東情勢の悪化の影響を織り込んでおりません。
※2 2027年3月期上期実績の国産ナフサは想定値を記載しております。

予測に関する注意事項

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

- 本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。
- いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。